

「連合2017平和行動in長崎」派遣団報告

「惨劇は長崎で最後にして欲しい」、被爆者の訴え

～平和ナガサキ集会に、全国から約3,000人が参加～

1945年（昭和20年）8月9日、午前11時02分。広島に次ぐ人類史上2発目の原子爆弾が、長崎に投下され、約74,000名もの方々が犠牲になりました。

あの惨劇から早や72年。一日早い8月8日には今年も「連合2017平和ナガサキ集会」が開催され、連合組合員をはじめ、全国から2,953名もの仲間が参加、犠牲者への哀悼の意と平和への祈りを捧げました。連合福島からはJAM南東北・菅野秀三副会長を団長に

9名が参加。



連合平和集会会場前にて



連合2017平和ナガサキ集会の様子

集会はハンドベルの美しい奏でと共に始まりました。集会では、(公財)長崎平和協会の丸田和男さんから被爆者の訴えがあり、丸田さん自身の被爆体験が生々しく語られました。当時中学1年生だった丸田少年。期末テストを終え、帰宅した際、自宅で被爆。気が付くと倒



ピースフラッグを次の平和集会開催地・北海道へ

壊した家屋の下敷きとなり、大怪我を負ったものの、渾身の力で脱出したそうです。その日の夜から下痢が始まり、出血もひどかったことから、約3ヶ月入院や静養に努め、11月初めに復学。3ヶ月ぶりの学校で同級生300名中100余名が犠牲になったことを知ったそうです。自分の体験をもって「この惨劇は長崎で最後にしてほしい」と訴える、丸田さんの姿が心に残りました。

連合福島の一行は翌9日、平和祈念式典が開催された平和公園や原爆資料館などを訪ねました。とりわけ、資料館は平和祈念式典開

催日の無料開放日ということもあり、世界各国から大勢の方が見学に駆けつけていました。広島のものよりも威力が大きかった長崎の原子爆弾。一発でこれほどの惨劇をもたらす核兵器が世界には、1万5千発も存在するとともに、当時のものより威力の大きい兵器も多数存在する現状に目を背けることはできません。まして、北朝鮮の核問題をめぐり、米朝両国間の緊張の高まりが連日報道される昨今です。

一同は、改めて平和の尊さを知るとともに、恒久平和への願いを強くし、帰路につきました。



平和記念公園前にて